



Kompass Accounting Co.,Ltd.
代表取締役 日本国公認会計士 小林 一雅

Kのどつぼ

ここ数ヶ月の間、あまりに専門的なことを書きすぎて、読者もお疲れでしょうし、また、年末でもありますので、まことに勝手ではございますが、今回は、まじめな話は、一休みしたいと思います。ということで今回は P 社の T 氏が、だいぶ前に企画し、いずれやりましようとして私が約束していた「K のどつぼ」、すなわち、私や会計士の諸兄方、面々が遭遇した、日本やタイでの嵌まった話や嵌められた話(嵌めた話はあまりありません。。。)を今回は書きたいと思います。これからお話する話は、「事実を含んでいるものの、すべての事実を言っているわけでもなく、かなりの脚色をしている可能性すらあります」とあらかじめお断りしておきます。また、一部、某大手監査法人の方からのネタの投稿も含んでいます。どの記事か? とか、誰が書いたか? は、想像にお任せします。

それでは、かわいいものから悲惨なものまで「どつぼ」集を行きます。会計士という人間考察の、「参考」(?)になれば、幸いです。

どつぼ1. Never Endingな監査

むかし、私が前の監査法人(日本)に入社したてのころ、ある先輩会計士が言いました。「監査がいつ終わるかって? それは時(締め切り)がくれば、(下の作業が終わってしまいが、)終わるのさ」と。これはある意味、自嘲が入っており、下っ端がチェックしようがしまいが、すでに上でニギリが成立しており、最終的には出てくる結論は同じ、かつ、期間が来れば打ち切り、常に適正意見というような意味だだと思えます。今は日本も厳しくなり、そんなこともなくなりつつありますが、それでもみんな期限までには、それなりの証拠を入手し、終わらせようと必死になって頑張っていて、最後は、何もなさそうなエリアは、未了であってもうやむやにやむをえないというのも結構あると思えます。で、タイはどうでしょうか? タイでももちろん頑張りますが、最後の「しょうがないな」という割りきりが、あまりないように思います。このことがいい場合と悪い場合があると思えますが、画一的にすべてについて納得がいくまでやる、手続を行うといったことです。一方で在庫評価とか揉めそうなところは、案外スルーだったりします。日本人お得意の「次回はちゃんとやるからお代官様お許し」とかいうのも通じません。それはさておき、結果、株主総会前日になっても監査報告書が出ていませんでした。何も知らされていない私は、前日に顧客から苦情の電話を受け調査に乗り出すものの、もはや手の施しようがないくらい To Do が多い。。。すいません、手の施しようがありません、経過をみるとしか、、、お医者さんのような気分です。

まあ、ここまでは普通によくある話で、さらにしばらくしてしまうとどうなるかという、ほぼ、完全に「放置プレイ」となります。知っている最長の事例では、双方にらみ合いながらメールでやりあい(私は cc)、2年半というのがありました。会社の決算がきちんとしまっていないのも大きな要因でしたが、当時を知るものはほとんどいなくなり、その後、契約解除…ハハハ、よく双方我慢したものです。ご立派。Never Ending な監査。記帳代行をしている今、考えると気が遠くなります。

どつぼ 2. 税金集金業務

タイに来て、1年目、3月頃にある顧客から電話がありました。「それで、今年はいつ集金に来てくれるんですか?」「??? どういうことですか?」「いや、いつも個人所得税の集金に来てもらっているんですよね」

「それでしたらメッセージか誰か派遣しますよ」「いや、やっぱり現金だからさ、信用できる日本人に来てもらいたいなと思って」「現金って…?? (絶句)」「うちのグローバルのポリシーなんですよ (自慢げ)」「グローバルのポリシーって…?? (絶句)」

この会社は、個人所得税が自己負担とのこと。集金に行くと応接に通され、日本人従業員が大事そうに現金袋を抱えながら1人1人入室してきます。ご丁寧に誰も入ってこないよう施錠しています。そして向かい合って、恐る恐る現金が指し出されます。カウントして仮領収書にサインして欲しいとのこと。世間話で「いやあ、毎年、銀行からここに運ぶのにひやひやしますよ」とかいうのをふーんと聞き流しながら、ポリシーだしなあと思い直して、昔の信用金庫の職員になったような気分で1人当たり云十万バートの現金をカウントし、署名しました。その後、翌年も継続。3年目に顧客の社長が交代。

私:「それで、今年はいつぐらいに行ったらいいんでしょうか?」 新社長:「何のことですか」「いやあ、毎年、個人所得税の現金集金にいつているんですよ」「??」

その後、集金に行き、現金をカウントしながら、世間話。新社長:「しかし、しょうがないけどさ、これキャッシャーチェックじゃだめなの? 危なくてさ」「でも、御社のグローバルのポリシーじゃないんですか?」「え、別に、そんなポリシーあるわけないでしょ。何のために?」「……orz (オーイ なんだったんだこれは。チキショー それでも気を取り直して笑顔で) それじゃ、翌年からキャッシャーチェックにしましょう!」

そして、翌年早々、メールが1通。「今後、グローバルのポリシーで、個人所得税計算は〇〇(会計事務所)にお願いすることになりました。すいません。」

「ブチ」っと、頭の奥で何かが切れた音がしました。

どつぽ3. タイに嵌まりすぎた日本人たち

これもタイに来たばかりのころ、前任が雇用した日本人職員がいました。タイ語、英語もべらべらだし、法律用語も完璧に読めるし、タイ人に対してスパイと思われているとかちょっと被害妄想の気があるけど、すごくいろいろ教えてもらいました。

ある日、日本の提携監査法人(私の出向元)から紹介を受けて、会社設立の顧客の紹介を受け、顧客の専務と私、それから先の日本人職員とミーティングを持ちました。年配の日本人役員にありがちな非常にディマンディングな依頼を行った後、彼が「日本の〇〇(監査法人名)さんには非常にお世話になっています。是非、タイの方も同じく宜しくお願いします」、内心はしょうもないなと思いつつも定石はギャランティーを避けつつ「頑張ります」というところです。が、当日本人職員の回答は違いました。「ここはタイです。日本と同じようなサービスを期待してもらっては困ります」、顧客役員「?? 何をいつているんだ。君はサービス業だろう。そこは頑張りますとかそういうことをいうべきではないのか?」と激昂。私、「まあ、まあ、ちょっと」、役員、「君には聞いていない。どういう意味なんだ」、職員、「ここはタイなんだから、本当に同じことを期待されては困ります。ホントに 親切で 言ってあげているのですよ」(全員絶句)。最終的に「話にならん」と退席。あんなに怒った日本人を久々にみました。そのあとの話は単なる修羅場ですので書きませんが、当時はタイが長いと日本の感覚を忘れてしまうものなんだなあ、気をつけよう等と殊勝なことを思ったものでした。その後、いろいろ事情があり、職員は退職、会社は職員が言ったとおり紆余曲折の末、ようやくできたと思ったら、今度は当の専務は、その後、脳卒中で倒れ、音信不通となり、会社は休眠状態となりました。(ガチョーン)しかし、今からよくよく考えると、この職員の発言は非常に的を得た表現のような気がしてきました。よくぞ言った、天晴れという気がします。すでに私もタイに嵌まってしまっているようです。(現在、7年目に突入)

どつぽ4. 急患偽装による不正隠ぺい工作

6月の中旬のある晴れた日、某大手監査法人の方より電話があり、「3月決算の会社で弊社が監査人なのですが、全く経理がしまっていないくて、日本人が7月株主総会だと騒ぎ始めているんです。何とか助けてもらえないでしょうか?」との依頼。一応、手に負えるかどうか話だけを聞くことにして日本人、タイ人スタッフとミーティングを持ちました。曰く、

1. 日本人社長が経理の疑問点をただしたところ、タイ人経理がなぜか激昂、2月に退職してしまったとのこと。
2. 従って2月以降全く締まっていない。会計システムは一切使用しておらず、経理担当が一人でエクセルで帳簿類を作成していた。
3. その後、経理担当を採用したが、次々と退職してしまい、今は3人目である。当時のことがわかる人は誰もいない。
4. 日本人曰く、絶対に何か不正をしているに違いない。
5. 会社はタイ人とのJVで、一大イベントである株主総会までには監査報告書つきで決算報告しなくてはならない。したがって監査対応を考えると6月中に決算を締めなければならない。

6月下旬、ものすごい苦勞をして、何とか消しこみきれない取引、不明取引を洗い出し、「どうしてもこの金額は(合計云十万バーツ)わかりません。どうしますか？」と聞いたところ、「しようがないのでとにかく処理してくれ」の一点張り、損失の金額に比べてずいぶんあっさりしていると思いつつ、よほど、株主総会のプレッシャーはすごいのだななどと、勝手に合点して、「しかたがありません、寄付金(損金不参入処理)で処理しましょう」と回答。その後、なんとか無事に監査も終了し、株主総会も終了したとのこと。

日本人社長からは、弊社に継続して記帳を依頼したいというところで、突然、当日本人からの音信が不通となりました。記帳継続でいいのかなと思いつつ、さらに4月以降、苦勞しながら作業を進めていると、数ヵ月後、風の便りで、実は当該日本人が会社のお金を使い込んでいたことが、内部告発により発覚。本人も認めたため、緊急で帰国命令が出たとのこと。帰国後、ほどなく退職、、、、などが耳に入ってきました。推定ですが、経理と喧嘩した理由、あれほど決算を急がされた理由、あっさり寄付金処理を容認した理由がようやくわかりました。あれは経理急患を装った日本人不正の隠ぺい工作だったのですね。何か自分もだまされたような、非常に苦々しい気分となりました。

さらに数ヵ月後、何も知らされていない日本人の後任が、弊社を訪問、何でこんなに月次決算が遅いのかと苦情。。。言い返すわけにもいかず、、、、もう、ほんとにいい加減にして欲しいっす。。。(> <)

どつぽ5. ソンクラン前夜

タイに赴任して間もない4月、個人所得税の申告も終了し、あとはソンクランだもんねとへらへらしていた、ある日、顧客から電話が掛かってきました。「あのねー、個人所得税の額、今年は妙に多いと思って調べてみたんだけどさー、Aさん、Bさん、、、、この人たちの税金異常じゃない？」と言われ、やむなく、タイ人担当者に確認し、エクセルのシートを見ました。すると、合計欄に計算式が入っていない。。。エクセルを表計算として使っておらず、電卓で別途計算しつつ、単に表として数字をコツコツと入力していたのでした。(*。’ 口`*)ええええ 驚きながら、担当者にたずねました。曰く、「でも申告前にお客さんに最終確認を依頼し、了承してもらっているんだから、向こうの落ち度だ！」と強く主張。いや、あのね、あるセルで0を一個多く入力したというのは、いくらなんでも。。。計算した彼は、今はもう事務所にはいません。

どつぽ6. 日本語によるクレーム対応サービス

会計監査については、期日を守れないとか、融通が利かないとか、態度が偉そうだとか、追加報酬を請求してくるとか(どっちに非があるのかはケースバイケースですが)、よくクレームを受けます。場合によっては、怒られる対象のタイ人会計士と日本人の社長さんとのミーティングに同席することもあります。当然、日本人の社長さんは日本語でクレームしてきます。社長さんが激昂される場合も多々ありますが、何せ日本語なので、どうしても私が怒られている気になり、滅入ってきます。一方、当のタイ人会計士は「何？」って感じで微笑みをたたえて座っています。そういう時は後で、私もタイ人会計士に「お前のせいじゃ、この、〇〇、〇〇！」(放送禁止用語です。)と日本語で笑いながら言ってあげます。

どつぽ7. 報酬交渉

毎年、監査契約の更新時には日本人マネジメントとタイ人会計士のせめぎ合いが発生します。必然的に会計事務所の日本人駐在員も調停役として巻き込まれます。以前、2,500 パーツの攻防で3日間、膠着状態に、、、(・° 彡 °・)ハアハア 3日後、「私の3日間分、全部で10万パーツチャージしていいですか?」「……」即、双方妥結となりました。

どつぽ8. 猿の惑星??

着任して1ヶ月が経ちました。驚いたことに、こちらの人事は赴任者に対して事前準備すべき諸々の事柄を何もしていませんでした。とにかく、日本人の場合はまずは名刺。名刺なんて、誰がいつから赴任するかわかっていれば、日本であれば当然着任日にもらえると思いますが、この事務所は一味違いました。着任後、すぐに人事担当(以下猿顔)に「名刺を頂けませんか?」とお願いしたところ、「あんたが来てからでないとなんかの発注できる訳ないでしょ! 受取るのに最低でも2週間かかるわよ!」とキーキーと毛を逆立てて答えられ、取扱いになれていない私はうかつにも、ぽっかーんとしてしまいました。(・。?) 結局、私は着任してから3週間にして、ようやく名刺を入手できたのでした。その間、顧客に紹介されても毎度、「すみません、着任して間もなく名刺の用意ができておりません」と頭を下げなければなりません。 (≧へ≦) ほんま、どないやねん、意味ないやんか…としましたが、猿顔=猿頭=何よりもバナナ優先だから仕方がないと思ひ込み、自分を慰めました。「なんでこんなに手際悪いねん…」という私の疑念が晴れる間もなく、その後も車リース料の給与天引事件、私用携帯番号無断掲載事件他、様々な事件が発生しました。さすが大手会計事務所、万全の体制です。そういえば先輩には「ここは全てが思うように進まないから」とアドバイスされていたような。こんな状態ですので、今後も何が起こるかわかりませんし、スムーズに事が運ばれるとは思いません。。。と思っていたら、何度も人事の怠慢を訴えたからでしょうか… 先日、猿顔は別の惑星(別部署)に移って行かれました。ラッキー(o)v

Bookkeeperのつぽやき。。。



ある読者、「先生、いつも月報の記事、えーと、「Kのつぽやき」見えますよ、「…」言い間違いとはいえ、つぽのタイトルを見てこの人はいつもさざえか何かのつぽやきをイメージしながら記事を読んでいるのだな、食欲旺盛だななどと考えてしまいました。タイでは食べられないでしょうから。ちなみに、タイトルに深い意味は全くありません。タイトルをぼーっと考えていたら2ちゃんねるのつぽのイメージが浮かんで、頭から離れなくなってしまい、つい、つけてしまいました。(^_^); 最後に、それでは、本年は大変、お世話になりました。来年が皆様にとって健康で素晴らしい年でありますことを祈念するとともに、来年も宜しく願い申し上げます。



KOMPASS ACCOUNTING CO., LTD.

日本であれば、街の会計士、税理士事務所で受けられる会計・税務のアウトソースサービスですが、タイには、品質的に満足に行くアウトソースサービスがこれまでありませんでした。タイでビジネスを展開する日系企業の皆様が、製造や営業販売といった本来業務にできる限り専念できるよう、コンパスがサポート致します。

【主な業務内容】

会計帳簿の作成(総勘定元帳、試算表、月次決算資料の作成)、給与計算代行、月次税務、会計処理のチェック、法定財務諸表の作成、連結財務諸表作成のための資料(関係会社向け連結パッケージ)の作成、法人税関係各種申告書の作成、個人所得税関係各種申告書の作成、VAT 関係申告書の作成、会計税務コンサルティング・顧問、その他関連業務

【連絡先】

代表 こばやし かずまさ 小林 一雅 (日本国公認会計士)

社名: KOMPASS ACCOUNTING CO., LTD.

住所: Silom Center Building, 16th Floor 2 Silom Road, Suriyawong Bangrak, Bangkok 10500

Tel: 66 (2) 652-5227-8 Fax: 66 (2) 652-5229 E-Mail: kompass@truemail.co.th